

公共劇場舞台技術者連絡会（公技連）加盟劇場の3.11の状況報告

公共劇場舞台技術者連絡会

1. いわき芸術文化交流館アリオス

① 施設の損害状況（地震時の状況も）（建物の破損、破損箇所など）

・地震時の状況

いわき市震度6強。

大ホール：ピアノ保守にて調律師が舞台中央にてメンテナンス中。

中劇場：照明保守にて下手袖付近にてムービングライトの点検、清掃中。

小劇場：市民参加事業の明かりあわせ中。技術スタッフ及び演出スタッフ。

交流系 スタジオ系：少数の利用者及び来館者。

地震発生後、直ちに指定避難場所である隣接する平中央公園に全員避難して待機。人的被害なし。夕方より雨そしてみぞれが降り冷え込んだため、施設の管理職が協議。ホワイエを点検後、客席のドア、舞台へ通じるドアを施錠。大ホール・中劇場のホワイエを避難者のために一時、解放する。

・破損箇所

大ホール：①吊機構の客席天井と建築躯体の壁が接触。客席前側の下手天井の一部が剥離、落下。②正面反射板がバックギャラリーと接触。背面底部と舞台床を固定する為のフランス落としの溶接部がはずれ落下。（鉄製重量10kg）

中劇場：①照明ブリッジがサイドギャラリーと接触。照明ブリッジのサイドフレームが変形。②複数の空ボタンがからみ合う。※他施設にない設備：可動式フロント・客席ユニット（10t～11t）は転倒防止策として、ユニットとギャラリー間を固定していたため、被害なし。

小劇場①：ピンスポットの転倒②照明ハンガーの曲がり③スチール棚のからの落下。

建築間の接合部分：①クラックや隆起。※これはエ

キスパンションジョイント（構造的に分割された建築の接合）、建築の寿命を長くし、地震の揺れから建物を守るために設けられた部分。

敷地：各所で地盤沈下が発生。また自転車置き場の建物の傾斜。別館機械室と音楽小ホールの空調等のパイプのズレ。

その他：天井部分や舞台上部からビスやボルトの落下。照明アルミハンガーの破損など。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

復旧工事の主な内容（現状の回復だけではなく、補強対策も行う。）

①衝撃吸収材の導入。※固定できない吊物の揺れに因る衝撃が避けられない場合、照明ブリッジのサイドフレームや、バックギャラリーの突起部分に衝撃吸収材（ソルボ社製）を固定。仮に衝突した場合でも決定的ダメージを受けないようにした。（特に落下物の防止に努めた）②ワイヤー・チェーン・ラッシングベルトによる転倒防止や揺れ止め。※転倒防止や揺れ止めとして天井及び壁にアイボルトでアンカーを打ち、作業や昇降運転に支障が出ないようにワイヤやチェーンの調整が可能な方法で客席天井やピンスポットライトを固定。スチール棚は同様にラッシングで固定。

③ けが人の発生状況

なし。

④ 開館・閉館等の措置状況

地震の発生から復旧まで。

3月11日夜から5月5日まで被災者の宿泊施設となり、その後復旧工事が行われ、スタジオ・リハーサル室は9月1日～使用再開、ホール・劇場が10月19日～再オープンする。また音楽小ホールについては市役所の甚大被害により市民課、国保年金課等が移転し使用していたが、10月17日に引越し作業が行

われ、その後点検、清掃を終え、2011年11月1日をアリオス全館再オープンとする。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど
・緊急避難場所

いわきアリオスは市の指定避難場所ではなかったが、建物自体の被害はそれほどなかったことや、まだ寒い時期で平中央公園に避難した市民が100名をこえていたことから、緊急措置として避難場所となる。大きな余震が続いたことから、館内で被災した職員はそのまま泊まり、24時間体制で対応。その後の福島第一原発の事故により、最大収容時247名。5月5日まで役割を果たす。

・被害直後の状況。

ライフライン関係※水道・ガスは停止。電話は固定・携帯ともつながらず。停電がなかったため、個人持ちのPCによるメール、携帯メールのみ。(市役所が甚大な被害を受け、業務用PCは使えず。)休暇の職員は個人持ちのPCや携帯メールで安否を確認し、召集された。

・外部の情報収集。

新聞やTVなど、マスコミ報道は福島原発を中心とした内容が多く、避難生活や市民生活に関わるような報道はされなかった。そのためインターネットを活用して聞くことができるサイマルラジオを利用。特に災害対応局であるFMいわきは地震直後から再開されるスーパーやGSなどの詳しい情報を提供した。

⑥ その他*その他の情報(チケット情報など)

避難所としての対応。

第1日目にホール備品のブランケットや毛布、パンチカーペット、上敷き、畳を提供。また余震が続いていたことから、ガラス・カテンウォール工法のホワイエの外壁から離れた位置を居住スペースとした。福島第一原発事故の影響から救援物資の輸送は岩手県や宮城県へ始まっても福島県は敬遠されいわきアリオスへの供給も遅れる。また、放射能の懸念から外気を遮断するため、空調は停止。いわき市は同原発から40~45km、アリオスは45kmに位置する。その後も断水が続いたため、トイレ用に消火栓用水

100tのうち、30tずつ2回提供し、残りを非常用として確保。

2. 水戸芸術館

① 施設の損害状況(地震時の状況も)(建物の破損、破損箇所など)

・地震時の状況

劇場はリハーサル中(休憩時)で音響担当者が一名劇場客席ブースに。コンサートホールはPfのリハがキャンセルのため無人で、舞台上にPfが1台。美術ギャラリーは開館中で客あり。エントランスホールにも数人客あり。客、関係者スタッフ全員避難。

・劇場

客席回廊壁の一部レンガの崩れ(鉄筋が入ってない部分)。袖の低スノコ部の破損(吊り点の鉄棒部分)、その付近の壁の破損。技術ギャラリー(4F)の床、壁の亀裂、鉄骨と壁との接合部分の崩れなどにより舞台、袖、ギャラリー等にモルタル片が散乱。搬入口(重量物)の扉のストッパーが破損し勝手に開いたとの報告。吊り物バトンのワイヤの滑車(ガイド)からの脱線。ライトブリッジの吊り金具の変形、ワイヤの一部破損(揺れた時に壁のほうの金具に引っ掛かりその一点に大きな力が加わったものと推定)。アンプ室のイコライザー、デッキなど落下。役者(楽屋)、スタッフ共に無事避難。

・コンサートホール

側面の壁と天井部分の壁の継ぎ目部分の金具、壁等が破損落下。外周の装飾間照明付近の壁の破損落下。照明、SP等の落下防止用の金網(4尺×6尺程度)が数枚、小型の鉄骨が少々落下。柱上部の鉄板のずれ、一部落下。落下物により座席、吊りマイクなど破損。楽器庫のハーブ破損。天井反射板の安全装置に不具合(ガイドレールの出っ張っている部分にローラーが乗ったため、ガイドレールを押し広げてしまい、安全装置スイッチに爪が届かなくなった模様)。カウンターウェイト枠のガイドレールからの脱落。余震により客席柱の大理石の剥離。けが人なし。

・美術ギャラリー

一部天井の崩落。縦3m横6m厚み10mmの硝子破損。客は全員避難。

・エントランスホール

パイプオルガン(2F)のパイプ(5~6m)が数本1Fに落下。他のパイプも内部で倒れてしまっている。劇場とコンサートホールに挟まれて吹き抜けのエントランスにしわ寄せがきたらしく、館内では壁、天井の損壊が激しい場所である。(後にひどい雨漏りに悩まされる)数人の客は広場に無事避難。

・その他

館の外壁の剥離、落下。タワーの周りの一部陥没など

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

当面の間、休館の指示。まず瓦礫等の撤去、かたづけ。復旧の為の業者の選定、予算の事もあり、我々で舞台機構、内部の損壊箇所など調査。4月に舞台機構、音響、照明の業者が入り、ホールの天井反射板以外に致命的な破損部分はなく、劇場のライトブリッジも吊り点の一部だけのため、とりあえずは大丈夫との事(9月にワイヤー、金具交換)。天井反射板は電源を落とし、使用禁止にして現在に至る(使用頻度が極端に少なく、固定してしまう事を以前から検討中)。建物内装関係では劇場、エントランスの一部の修繕を地元の業者に依頼、4月の中旬から工事に入る。館全体の復旧工事の業者も決まり、調査に入る。7月9日のコンサートホールでの水戸室内管弦楽団の定期演奏会を目指してホールの工事が5月中旬より開始。6月より美術ギャラリー、エントランスの工事が開始。外壁工事、パイプオルガンを除いて7月30日に全館オープン。10月初旬には外壁工事がほぼ完了、パイプオルガンは11月ぐらいから修理予定。

③ けが人の発生状況

なし。

④ 開館・閉館等の措置状況

当初は復旧工事のメドがたたないため、劇場、ホール、ギャラリー、エントランスの一部を除いてしばらく立ち入り禁止とした。勿論一般の客も館内

立ち入り禁止に、対応としては当面の間、休館との広報。演劇、音楽美術部門のさしあたっての企画は中止、延期を決定。6月~9月にわたって行われる水戸市の芸術祭(市の施設各所)は早々と中止を決定。公演日(7月30日から)の対応としては、震災時の避難に関する事項を追加し事前にアナウンスする事と、火災発生事のみを開く緊急時避難専用の電気錠(非常口)を開錠しておく事にした。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

・緊急避難場所

当館も避難場所として開放したが、緊急避難場所に指定されておらず、水、食料、毛布などの配給がないとの事で市に要請し、緊急指定してもらおう。当館も被災しており比較的損傷の少なかった会議場のロビー、館長室を使ってもらった(職員が交代で対応)。3日間で延べ200人ぐらいで、その後は近くの小学校に移ってもらう。復旧工事中の全体の活動としては音楽部門が専属楽団員の有志によるチャリティーコンサートを復旧後の体育館や図書館にて公演。演劇と美術のコラボで市内各所の喫茶店やレストランで朗読やパフォーマンスを(アマチュア劇団、劇団ACM)。専属劇団ACMによる市内幼稚園の訪問公演など。

⑥ その他*その他の情報(チケット情報など)

避難所としての対応。

チケットの払い戻しに関してはタワー下のブースで行なった。なかには払戻金をそのまま復旧の為に寄付される方も複数いたようだ。当館では貸館業務がないため他の会館に比べて面倒が少なかったのではないかと思われる。

3. りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

① 施設の損害状況(地震時の状況も)(建物の破損、破損箇所など)

震度 新潟市中央区 震度4

・コンサートホール:(自主)オルガンコンサートリハーサル中。吊り物が激しく揺れぶつかり合う。オルガニストリハーサル一時中止。破損箇所等は特に

なし。

・劇場：(自主) 演劇祭仕込み中。吊り物が激しく揺れぶつかり合う。フォーカス中の照明スタッフ1名ブリッジより降りられなくなる。(余震の落ち着いた約30分後に救出。) 破損箇所等は特になし。

・展示ギャラリー：(貸館) 書道展開催中。利用一時中断。

・その他：スタジオB通し稽古中。中断。館内の点検開始。安全のためエレベータの使用をすべてストップ。地震対策本部設置。全館放送開始。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

なし。

③ けが人の発生状況

各ホール余震が落ち着くまで、全館放送にて待機要請。舞台設備の点検終了後、コンサートホール：利用再開。劇場：仕込み再開。展示ギャラリー：主催の判断により本日の利用は中止、解散。スタジオB：稽古中止、解散。閉館時刻まで地震によるけが人の報告はなし。

④ 開館・閉館等の措置状況

12日 明朝、新潟でも大きめの余震が起きたこともあり、再度各ホール点検を行い、各ホール作業を再開。能楽堂：(自主) 能楽堂基礎講座、講師移動困難の為中止。

13日 T交響楽団定期公演(自主) 中止→4月10日に延期。

15日 Bフィル(共催) 中止。

17日 東北電力による計画停電対象エリアに指定されたため、その時間帯に係る公演2本、リハーサル2本を中止。(結果として停電は実施されず。)

18日～26日まで計8公演が震災による影響から中止及び延期。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

3月30日現在、通常通り稼働中。4月中は4本の公演が中止、または延期予定。今後、計画停電が実施となった場合、計画時間の前後1時間を足して休館とする方針。

⑥ その他*その他の情報(チケット情報など)

12日 中止能楽基礎講座(自主)→現金または口座振替にて払い戻し。

13日 延期 T交響楽団公演(自主)→代替え公演に鑑賞されない方について、現金または口座振替にて払い戻し。

14日 中止 Bフィル公演(共催)→りゅーとぴあ会員のお客様に対し、口座振替にて払い戻し。

4. 彩の国さいたま芸術劇場

① 施設の損害状況(地震時の状況も)(建物の破損、破損箇所など)

建物・ホール：破損等も、特に大きな影響はありません。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

なし。

③ けが人の発生状況

改修工事作業中でしたが、大きな混乱もなく、けが人もいません。

④ 開館・閉館等の措置状況

改修工事中

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

改修工事中

⑥ その他*その他の情報(チケット情報など)

被災地への資材提供・工場が被災地の為ラインが停止中・計画停電の影響という理由により、工期が延長する可能性がある。それに伴い、7月に開館して行う予定の自主公演及び貸し館への影響が考えられる。また、開館したとしても、計画停電が実施された場合の公演への影響が現在では予測不可能。

5. 熊谷会館

施設の損害状況(地震時の状況も)(建物の破損、破損箇所など)

・ホール：特に大きな影響なし

・その他：一部漏水

① 破損箇所の修繕の有無や期間など

・ホール：なし

・その他：漏水修理

② けが人の発生状況

ホール：空き状態でしたので、大きな混乱もなく、けが人もいません

③ 開館・閉館等の措置状況

3月12日・13日通常通り貸し館実施

3月20日ホール貸し館が7月3日に振替

3月27日ホール貸し館キャンセル

④ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

計画停電の影響及び利用者の安全対応が出来ない理由で3月31日まで臨時休館。窓口業務は通常通り営業中。

⑤ その他*その他の情報（チケット情報など）

4月1日以降営業を再開する予定ですが、計画停電が実施された場合の対応などを事前に確認の上、利用者に許可。実際の公演への影響は現在では予測不可能。

6. 埼玉会館

① 施設の損害状況（地震時の状況も）（建物の破損、破損箇所など）

・大ホール：吊り収納されている側反響版や、バトン、照明機材の接触。

・小ホール：特に大きな影響なし。

・その他：会議室(5部屋)の窓ガラスにひび割れ／管理棟エレベータ2台が非常停止。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

・大ホール：舞台機構設備吊物のリミットがずれていないか確認が必要。

・その他：窓ガラスについて要修理。

③ けが人の発生状況

・大ホール：貸し館利用中でしたが、仕込み等終了して開場までの待機時間だった為、団体を速やかに避難誘導し、大きな混乱もなく、けが人もいません。

・小ホール：自主事業のピアノ演奏とビデオ上映中でしたが、観客及び出演者を速やかに避難誘導し、大きな混乱もなく、けが人もいません。

・その他：会議室の貸し館利用中でしたが、団体を

速やかに避難誘導し、大きな混乱もなく、けが人もいません。

④ 開館・閉館等の措置状況

3月11日大ホール貸し館の講演会及び会議室の利用キャンセル。

3月12日・13日施設点検の為臨時休館。

3月14日大ホール・小ホール貸し館中止。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

計画停電の影響及び利用者の安全対応が出来ない理由で3月31日までホール利用休止。リハーサル室、展示室、会議室は利用可能。

窓口業務は通常通り営業中。

⑥ その他*その他の情報（チケット情報など）

4月1日以降営業を再開する予定ですが、計画停電が実施された場合の対応を事前に確認の上、利用者に許可。実際に公演への影響が現在では予測不可能。

7. 東京芸術劇場

① 施設の損害状況（地震時の状況も）（建物の破損、破損箇所など）

・地震時の状況

大ホールは貸館、中ホール、小ホール1は夜公演、小ホール2は稽古中。展示ギャラリーは公開準備中。最初の揺れから2度目の揺れで避難を決定。西口公園に館内全員避難をさせた。避難人数が少なかったおかげで、パニックもなく避難できた。

・大ホール

最初の揺れで天井反射板が大きく揺れた。リハーサル中だったので、すぐにスタッフが、演奏者に声をかけて、袖に誘導。天反はガイドレールからローラーが外れ、プロセライトにぶつかったり、大理石の壁にぶつかって壁が破損、客席下や舞台下に破片が落下。またオルガンの装飾も舞台面にかなり落下した。また側壁天井の亚克力板も落下。避難放送で速やかに全員避難。

・中ホール

ポータルブリッジ、ライトブリッジや吊物バトンが大きく揺れた。後で確認したらガイドローラが変形

していた。ソワレ公演のため、出演者、スタッフとも着到前。制作数人楽屋内で準備中。避難放送にて全員避難。

・小ホール1

被害なし。ソワレ公演で、だれもいなかった。

・小ホール2

稽古休憩中、バトンなどが大きく揺れた。避難放送にて全員避難。

・展示室他

被害なし。停止した大エスカレータを歩いて避難する人がいたので注意した。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

都より安全確認のために12日、13日を全面休館とするよう指示があったため、全スタッフにて調査。3月いっぱい改修のための閉館にはいるということもあり、天井反射板についてはメンテ業者と相談してとりあえずガイドにはめ込んで移動不可の状態に固定(14日に処置)。壁については施工建築業者に依頼し、応急処置として、3日後(14日と15日)に破損した壁部分をベニヤ張りで対応。中ホールのガイドローラの変形に関しては、千秋楽(3月31日)まで動かすことはないということでそのままの状態とした。中ホールと小ホール1についてはカンパニー側の照明グループを含めて、吊り込んだ照明のハンガーの増し締め、あたりの直しなどを14、15日を実施。

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

大ホールに関しては主催者側から中止の要請があった。そのほかは劇場から余震の影響を考えて中止を要請した。その後と都から12日13日の2日間は安全確認のために全館閉館の指示があったため、閉館。各主催者に連絡し、状況的にみて公演自粛を要請。中ホールなど15日からの公演を継続したいという団体に関しては都とも相談して、開館時間を公演開始1時間前として公演を継続。さらに計画停電等の問題があり、節電試算をしてエスカレータやエレ

ベータの停止。空調の停止をして公演を継続した。また公演を行う条件として、募金活動と合わせて、余震時の緊急対応などを事前にお客様にアナウンスすることなどを提案した。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

11日の夜には帰宅困難支援場所として会議室、リハーサル室を解放。約600人を受け入れ、職員は24時間体制で対応した。深夜毛布がないかとの要請で区や消防署に掛け合ったが、手配できず。警察署から30枚分の毛布の提供を受ける。都に要請していたが朝方に調整できたという連絡。6時になって3000枚の毛布が到着したが、利用者0。

テナントのおにぎり屋さんが朝おにぎりを低廉価格で販売。多くの人が購入していた。

⑥ その他*その他の情報(チケット情報など)

チケット払い戻しに関しては各主催者のHP等に公表し対応。公演中止とした大ホール関係者等は開場予定前にアトリウム前にてテーブルを出して対応。また中ホール、小ホール公演に関しては追加公演を実施した。

8. 青山劇場・青山円形劇場

① 施設の損害状況(地震時の状況も)(建物の破損、破損箇所など)

青山劇場は、3月1日より3月31日まで工事中。バトン・ブリッジなどが大きく揺れたため、重量物のカウンタ・ウエイトがはずれ、リミットスイッチを3箇所破損。

円形劇場は、こどもの城「合唱講座」おさらい会の仕込中で、かなりの揺れであったが、破損等はなし。夕方からのリハーサルに、こども達が来られなくなったため、中止にする。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

翌日修理完了(3月12日)

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

スタッフは、2・3人をのぞいて劇場に宿泊、明日に

備える。こどもの城は、3月18日まで臨時休館。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

3月11日当日こどもの城のお客様で帰宅出来ない方が約90名宿泊なさいました。当日の夕食は、ストックされていたペットボトルの水と非常食で過ごしていただき、朝食は炊き出しをしました。

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)

3月12日早朝、本日の「合唱講座」の公演を延期と決める。(4月10日)

3月16日からの自主公演は、予定通り公演した。

3月24日からの自主公演は、延期となる。8月末?

3月29日は、4月29日に延期。

9. 世田谷パブリックシアター

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

・地震時の状況

主劇場パブリックシアターは主催の舞台技術者養成講座の「舞台音響基礎講座」の開催中。小劇場シアタートラムは休館日。稽古場AではD公演、稽古場BでS公演が稽古中。

・パブリックシアター (ビルの3F以上に存在)

舞台上で講座を行っていたため揺れが大きくなるとすぐに吊り物がない袖に参加者30名と劇場の音響担当を含む講師5人は待避、建物の揺れが収まらないため客席ロビーに移動、他の舞台スタッフも同行。舞台上ではバトン同士が当たり、大きな音が持続的に発生、吊り物の揺れは15分ほど続いた。全館避難放送が入り非常階段でビルの外に待避、2度目の揺れでビル外側のエクспанション部分が破壊、落下するのを目撃、広域避難場所への避難を開始した。プロセスピーカのワイヤが少しずれたのとプロセブリッジの吊り滑車がわずかにずれた以外劇場内の被害はなかった。劇場入り口の床、高層棟の壁の石膏ボードの破損は多数箇所に入った。また劇場の建物と26階建て高層棟との接合部の建物内部のエクспанション部分がことごとく破壊、パネルの落下などが発生していた。

・シアタートラム (1Fに存在)

休館日のため当日人の出入りはなかった。建築、設備とも被害はなかった。ただし照明バトンの揺れによりほとんどの灯体ハンガーの締めが緩んでいた。

・稽古場A

D公演の稽古中、地下4Fのため劇場より揺れは小さかった。全館避難放送で劇場スタッフの誘導により避難、広域避難場所にて劇場からの避難メンバーと合流。ハンガーの緩み以外被害はなし。

・稽古場B

S公演の稽古中、地下2Fのため劇場より揺れは小さかった。全館避難放送で劇場スタッフの誘導により避難、広域避難場所にて劇場からの避難メンバーと合流。ハンガーの緩み以外被害はなし。

・作業場、事務室他

被害なし。防災計画提出の際、転倒防止を徹底したのが功を奏した。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

劇場内の破損箇所はほとんどなく、パブリックシアターのスピーカも劇場担当者による作業で復帰。プロセニウムブリッジはその後の機構の定期保守点検の際に戻した。ビルの破壊された部分は応急補修を行い、本格的な工事は8月を過ぎてから行って10月段階で相当部分が復旧している。

③ けが人の発生状況

なし。

④ 開館・閉館等の措置状況

12日の稽古場とシアタートラムで行うワークショップ、パブリックで行う舞台照明基礎講座、13日の舞台技術公開講座および14日の舞台技術公開セミナーはすべて中止とした。12日午前中に稽古場関係を先に点検し、安全確認を行って14時に稽古場を再開した。劇場は12日、13日、14日かけて13日の舞台機構の工事メンテナンスを委託している舞台機構会社の社員立ち会いを含め劇場技術部全員で吊り物、床機構を動かし安全を確認。14日シアタートラムのS公演の仕込み、15日パブリックシアターのD公演の仕込みを行った。17日の初日の時、パブリックシ

アターのロビー入り口の床破損が激しく、また主要な観客導線であるエスカレータが止まっているため客案内に苦労した。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

帰宅困難者に対して当劇場は会場にあり、そこへの案内導線を確保できないため、近くの区の対応した施設への案内にとどめた。施設としては極力業務を通常に戻して進めたが、上演の延期を申し出た主催者もあった。また海外からの来日公演の中止も発生した。電力制限、計画停電の際は極力無駄な電力を使用しないよう努めて7~9月時では昨年より20数%減の使用実績を実現した。

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)

震災後、防災計画、初動マニュアルまた日常の運用体制の見直しを図り、避難訓練も繰り返し行った。また緊急時の対応について提携公演については契約条項にその対応を踏み込んだ形で盛り込んだ。

10. 神奈川県立県民ホール

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

・地震時の状況

大ホール・小ホール・会議室はオペラの仕込みで使用中。幸い仕込みが順調に進んだため11日はOFFとなっていた。ギャラリー展示室では展示の最中でガラスの作品が転倒して破損した。

・大ホール

最初の揺れで照明ボタンが大きく揺れたためシュートをやり直さなければならなくなる。イタリア人の照明技師たちはNホールでオペラの仕込みに掛っていたため急遽招集。美術ボタンがレールから外れたため舞台機構会社に連絡して修理及び動作確認を行うと同時に本番(13日の日曜日)にも待機してもらうよう依頼した。本番前から中止を望む電話が20件くらいあり対応に迫られたが、指揮者が観客に哀悼の意を示す言葉を話され何事もなく始まった。また余震が続くため職員全員で無線により情報を共有しながら有事に備えた。

・中ホール

大ホールと併用で使用。パイプオルガンを覆っているボードがストッパーを弾き飛ばして外れる。

・ギャラリー展示室

展示作業をしている人達が2回目の揺れで表に避難した。結局帰宅できずに20人余りの方が小ホールロビーにて一夜を過ごした。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

大ホールに関しては12日には修繕終了。小ホールボードは2,3週間後に修理。

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

13日のオペラは実施したが、そのあとのオペラは公演中止となり払い戻し業務でアルバイトを増員

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

11日の夜に20名の避難場所となった。その他、ニュースなどで県民ホールが避難場所になっている事を広報したが避難者はゼロ。備蓄している非常食を提供するとともに、警備が豚汁の炊き出しを行った。

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)

隣の芸術劇場と合わせるとかなりのキャンセル作業を余儀なくされた。

11. KAAT 神奈川芸術劇場

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

・ホール

発生時：落語独演会の仕込作業中

対応：作業中断し、しばらく待機し、安全確認を始めるが、余震がやまないため、その日の作業を中止する。

破損状況：客席上部の天井反射板(可動)が揺れてプロセブリッジ上部に激突。細かな破片が落下。搬入リフトが運転中(無人)に発生したため、途中で停止。エンコーダーワイヤーが絡まり運転不可に。また衝撃で油圧ラムのパッキンが変形し、軽微の油漏れが発生。

・大スタジオ

発生時：公演の初日にあたり、舞台稽古中。作業中断し、しばらく待機し、安全確認を始めるが、余震がやまないため、公演の中止を決定し、その日の作業を取りやめる。

破損状況：照明サスペンションが近接のキャットウォークに衝突し、照明コンセントボックスのコネクターが複数箇所破損あるいは陥没した。

・中小スタジオ

発生時：使用なし

・アトリエ

発生時：使用なし

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

・ホール

プロセブリッジ破損部分の補修及び破片の落下を防ぐ改善措置を予定。搬入リフトについては、翌日に応急の運転は可能な状態に復旧。最終的な部品の交換などは、9月におこなわれる。

・大スタジオ

4月にコンセントボックスの補修、一部部品の交換がおこなわれる。

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

地震発生後すぐに施設・設備に大きな被害はないことを確認したが、余震に備えた安全確保や舞台の大幅な復旧作業が必要であったため、11日の公演を中止とした。また、翌日に向けた作業を開始するも、強い余震が続いたこと等もあり、主催者とも協議の上、翌12日も開催中心を決定。13日には準備が整い、余震もほとんどなく、交通機関もほぼ復旧していたため、予定されていた公演や講座を実施した。

ただし、計画停電実施の発表や余震の頻発等により、観客の安全確保、及び直後の公演の準備期間の確保が困難であると判断し、3月中の自主事業に限り中止とすることを15日に発表した。なお、閉館はせず、スタジオでの稽古利用等や4月以降の貸館利用については安全の確保を前提に主催者判断とした。

(開館が1月であり、3月までは主催事業のみの利用であった)

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

11日は、帰宅困難者のために絨毯敷きの劇場ロビーを開放。のべ約120名が一夜を過ごした。劇場職員が対応。なお、避難施設としての想定はされていないため、備蓄等はなかったが、県民ホールの非常用備蓄品を運び込み対応した。

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)

中止とした公演のチケットについてはすべて払い戻し。公演が予定されていた日にはブースを出したほか、購入者への連絡等により払い戻しに対応。

12. まつもと市民芸術館

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

貸館公演中。

(客席実験劇場形式 約320/360 観劇中。)

松本 震度4。

地震発生時、ロールバック席上のお客さんが騒ぐ、席を立とうとする。舞台上キャスト3名上空の音や客席を見て不安な表情。舞台技術職員、中断を舞台監督に打診。中断決定。職員客席へ、着席を促す。落ち着いた所でお客さんを共通ロビーへ誘導。携帯電話抑止装置解除。主催者によるその後の決定待ち。余震が収まらず、40分後中止決定。

・劇場内 手動式防火扉が勝手にしまった場所2ヶ所あり。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

建築・舞台 JV 来館、破損箇所の有無確認。異常なし。

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

催し物自体その後3回の公演を残して、主催者側は開催を希望、1回でも揺れたら中止を条件として3回とも公演完了。中止区分の代替えはなし。

その後の催事は、主催者側の意向により日舞が順延、政党大会が中止。その他の催し物は条件付開催。

(震度 4 にて中断。)

松本市は催し物開催を承諾。

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

今後催し物を行うにあたっては震度 4 にて中断。

大事には避難所となる旨、災害時の誘導レクチャー及び MC 原稿を確認。主催者に開場前に指示中。

電力会社による停電予定は今のところなし。

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)

貸館で尚且、会費制の鑑賞会の為、払い戻しに至る話し合いに発展せず。その後も払い戻しの必要な中止は予定なし。

13. 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

・大ホール:反響板のコンサートの仕込み作業中に、反響板およびバトン・ブリッジ関係が「ギシギシ」揺れた程度で接触はなし。

・中ホール: JAZZ の仕込み作業中 (照明フォーカス作業) に、ブリッジが前後 20 c m 位揺れた程度で接触はなし。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など
なし

③ けが人の発生状況
なし

④ 開館・閉館等の措置状況

大ホール

3月21日(月)コンサート公演延期

3月26、27日(土、日)公演延期

3月28日(月)コンサート公演延期

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど
特になし

⑥ その他*その他の情報 (チケット情報など)
特になし

14. 兵庫県立芸術文化センター

① 施設の損害状況 (地震時の状況も) (建物の破損、破損箇所など)

・地震時の状況

当館は 3 つのホールを持ち、当日、小ホール以外
は非稼働

・大ホール

オペラ休演日

劇場スタッフによる備品整理、片づけ作業など実施中。オペラ専属外部スタッフは休み。作業中に照明ブリッジが舞台上下方向に揺れ地震と解る。揺れが大きくなる、照明ブリッジがギャラリーに当たり衝撃音が発生する。

・中ホール

当日は非稼働。作業なし。

・小ホール

市民団体の施設利用。

コーラスのリハーサル中であつた。出演者の多くが「揺れている?地震?」と言っているが RH は続行。会館担当者も確認中に揺れが収まる。音響反射用のアクリル円盤を吊っておりそれが揺れていた。”

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

・大ホール

照明ブリッジの激突が発生したため、ブリッジの損傷をギャラリーから確認。懸垂構造なので、スノコでのワイヤを確認後、舞台機構の電源を入れて異常アラーム等の確認を行う。異常なし。

実機を動作確認は、スタッフが少ないこともあり、翌日に行うこととする。

明けて 12 日、オペラスタッフとともに、照明機材、吊りものワイヤなどの確認を開演前舞台チェックと並行して行う。異常なし。

・中ホール

スノコでのワイヤを確認後、舞台機構の電源を入れて異常アラーム等の確認を行う。

オケピットセリに異常。動作リセットして動作確認。異常なし。(後日異常の原因判明。内臓電池の電圧低下。地震との関係はなし。)

明けて 12 日、施設利用者の仕込み時に実機動作確認を並行してチェック。異常なし。

・小ホール

利用者の避難、待機措置等なし。利用は続行。利用者の休憩中に職員による、スノコの確認、懸垂物の目視確認を行う。

明けて12日始業前に動作確認、吊りSP、照明チェック異常なし。

③ けが人の発生状況

なし。

④ 開館・閉館等の措置状況

なし

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

なし

⑥ その他*その他の情報（チケット情報など）

出演者の移動が困難なため公演中止 1件

海外招へい公演、海外から来日せず中止 1件

海外出演者帰国に付中止 1件

施設利用（貸し） 中止 1件

3月17日消防避難訓練実施。実施後のミーティングにより地震・火災避難訓練方法、対応の見直しを進める方向で一致。舞台技術部にある安全衛生委員会の全館組織として拡大を検討中

15. 北九州芸術劇場

① 施設の損害状況（地震時の状況も）（建物の破損、破損箇所など）

地震時の状況

■大ホール 音楽リハーサル中

*当日、翌日の本番の中止が決定。

■中劇場 演劇仕込み 18:00～の準備中

*翌日、公演。

■小劇場 演劇の仕込み中

*翌日、公演。

*劇場及び周辺地域でも、地震が観測されず、被害も発生していない。

② 破損箇所の修繕の有無や期間など

なし

③ けが人の発生状況

なし

④ 開館・閉館等の措置状況

なし

⑤ 報告時の活動状況 *避難場所となっているなど

なし

⑥ その他*その他の情報（チケット情報など）

震災後、4月の音楽関係の催しが延期。主催者の辞退による公演中止1本。

また、震災後、北九州市が設置した老朽化した市民会館の使用禁止が決定されたため、その代替として同施設の使用が承認されていた主催者の催しを一定期間、優先的に受け入れた。